

## 平成27年度「第2回山梨県男女共同参画審議会」議事録

1 日 時:平成28年2月16日(火)午前10時00分～

### 2 審議会出席委員

(審議会委員)松葉惇会長・牛奥久代会長代理・赤岡正毅委員・岡村美好委員

小川はるみ委員・小田切陽一委員・川村克美委員・久保寺成典委員

高橋好美委員・新津なを志委員・樋口高子委員・堀内詠子委員

堀内寿人委員・宮崎正成委員

14名出席

(事務局等) 渡辺企画県民部理事・市川県民生活・男女参画課長

三井県民生活・男女参画課総括課長補佐・古屋男女共同参画担当課長補佐

伊藤副主幹・木戸主査・山口主任・香西主任

(進 行) 三井県民生活・男女参画課総括課長補佐

### 3 会議次第

(1)開会

(2)企画県民部理事あいさつ

(3)会長あいさつ

(4)報告事項

① 山梨県男女共同参画平成26年度年次報告書について

② その他

### 4 概 要

◇ 開 会

◇ 理事あいさつ

◇ 会長あいさつ

◇ 事務局から

・本日の会議は、委員数15名中14名が出席しており、委員の2分の1以上の出席となっていることから、山梨県男女共同参画推進条例第22条第10項の規定により、会議を開催する。

◇ 議 事(条例第22条第9項により、会長が議長)

(1) 「山梨県男女共同参画平成26年度年次報告書」について

議 長 ●「山梨県男女共同参画平成26年度年次報告書」について、事務局から説明願う。

事務局 ●〈「山梨県男女共同参画平成26年度年次報告書」について説明〉

議 長 ●質問等はあるか。

委 員 ●年次報告書を見ながら思ったのは、目標はたくさん達成されているようだが、意識はあまり変わっておらず、状況としての実感も薄いのが気になっている。計画をつくったり、研修は行っ

ているが、実際には女性が管理職や組織の意思決定層に入っていない。いくら研修を行ってもトップが女性を活かそうという意識にならないと、いくらやっても状況は変わらない。そういう意味でクォーター制のように強制的に意思決定層に女性を入れていくようなことをしていかないと、限界にきているのではないかと思う。

議長 ●女性の職業進出は進んでいるが、さらに進めることが必要。

委員 ●地域の中での女性の活躍がなければ社会が成り立たなくなっている状況。たとえば山梨県では食生活改善推進員や愛育会など女性が中心となった地域活動の団体があるが、全国を見るとそういった団体は残っていなかったり、実際には活動していなかったりする。しかし、山梨県には残っており、山梨県の宝だと思っている。むしろ地域の健康づくりなどになぜ男性が入っていないのか、これこそ男女共同参画ではないと思っている。山梨県の女性が地域でのリーダーシップをとっていないということは決してないと思う。また、少子高齢化の今後の見通しを考えると、子どもが減って高齢者が増えるということはよく言われているが、女性のほうが長生きであるため性別のバランスが大きく崩れる。2050年には85歳以上の女性が日本で630万人となる。男性は360万人。このバランスの崩れに加え、産業界などに男性の労働者がとられていくという状況を踏まえると、地域で暮らす元気な高齢の女性が介護を担うことになる。そう考えると、今のうちに男女が地域で平等に役割を担うという意識を高めるという必要がある。

事務局 ●地域における男女共同参画に関するご発言について、子育て支援、介護などの地域活動を行っている方は圧倒的に女性が多いと感じている。一方で自治会長に占める女性の割合は非常に低く、地域における男女共同参画では女性がもっとがんばらなければならないといった視点での指標があるが、実態としては地域で女性ががんばっている。この実態を認めて、逆に男性がそういった中に入っていく必要があるという発想は非常に大切だと感じた。

委員 ●自治会への女性の登用だが、古い地域では自治会長は男性の年齢順で決まっている。そういう決まりがある中に女性が入っていくのは非常に難しい。

議長 ●数値がよくなっているということは、取組などの成果は出ていると感じてよいか。

事務局 ●めざましく一気に変わることは難しいとは思いますが、地道に普及啓発を行うということ、また女性の活躍推進法も制定されたため、これによってかなり大きく職場における女性の活躍は推進されるのではないかと考えている。

議長 ●日本社会は他国にはないよいところもあるのでそれを保存しながら、地道な活動を行って変わっていき、それが違うところに影響を与え、それが繋がってよい流れになるとよい。

委員 ●今までは男性の視点だけだったので行き詰まっているのではないか。女性の視点が入るとよくなるのではないかと考えている。男性の意識は利益が第一目標。採用する時も男性のほうが利益を上げられると思うから男性を採用する。また育休をとると利益が上がらないと思うから切り捨てている。女性も育休をまるまる1年や3年とることに不安を感じている。まるまる休むのではなく、半日仕事をするなど意識を変えていくと利益の上がる働き方が可能になると思う。今は休むか働くかどちらかの選択肢しかないが、一日おきに働くなど、根っこのところから意識を変えていく、男女一緒になってよい日本をつくってほしいという意識を持つ必要が

	<p>ある。下の立場の人は意見を言いにくい。ざっくばらんに意見を言える状況をつくることが男女共同参画の一つの意味だと思う。そういう観点では、ただ単に女性の管理職を増やすというより、その職場でざっくばらんにいろいろな話ができ、組織や地域の運営に活かさせていけるともっと変わらと思う。</p>
委員	<p>●自分の職場に当てはめると、地域に根ざした人材を育成する必要があり、県外への転勤はないが、県外への転勤がある人より賃金が上がっていかないという一般職という職種をつくったところ、応募する方が非常に多くなった。親元から通えるならその方がよいという考えの方が非常に多い。管理職についても、地域に根ざした小さな部署については女性の管理者もいるが、大きな部署の管理者には女性はほとんどなりたがらない。女性が採用されはじめたのがつい最近のことであり、女性の活躍できる場が少なく、まだまだ男性と女性の考え方がリンクできていないのが現状なのではないかと感じている。自治会については、古い地域では自治会長は年功序列で、しきたりなどがあり、新しく入った方の意見はなかなか取り入れられない状況があることも事実ではないかと思う。男女共同参画の推進はすぐにでも着手しなければならないものだと思うが、実際にはまだまだ数字ありきのところがあり、女性の管理職登用何%など、数字に縛られており、身体と頭が合致して動けていないのが企業の現状だと感じている。</p>
委員	<p>●介護・育児は女性に重きがあり、管理職などになかなか入れないという中で、働き方の選択肢があるのはとてもよい。多様性を企業内でも地域でも取り入れていくということを考えていかないとけない。地域で活躍しているのは女性が圧倒的に多い。組織では男性が中心だが、自由度では女性。その視点をお互いに取り入れながら改革していくとよい。</p>
委員	<p>●いわゆる計画や制度、仕組みは建前の話。男女共同参画という枠の中で話をすると、双方に遠慮や甘えがあるように思う。女性は管理者になりたがらないという話があったが、企業の中では業務命令は絶対で拒否できない。そこがスタートで、上司、会社と自分の要望や能力、人生設計などを会社側と調整をしながら自己実現をしていく努力を双方がしていかなければならない。女性個人のエンパワメントも大事。社会の中で、女性も自分達が社会でなにをやっているのか考え、自分自身も努力していかなければならないのではないかと。個人のレベルまで情報提供や啓発ができればよいと思う。</p>
委員	<p>●私は自治会の会計委員を担っており、女性で自治会の会計に入ったのは始めて。自分のできることをやってみようと考え、会計になったが、仕事も持っており、管理職をやらせてもらっているので大変な部分もあったが、女性が入ることで自治会の先輩の方々の考えも変わってきたように思い、うれしく感じている。職場でも女性の管理職はあまりいない状況だが、自分ができることをと思い行動してきた。その結果を企業のトップが見て評価してくれていたのかと思う。数値については、こういった会議での意見や県民の方々の理解が反映されて成果が出ているのだと思うが、まだまだ女性の活躍については厳しい状況。今後は達成できなかったところを次回にどうやって数値を上げていくかということを検討していただければと思う。</p>
委員	<p>●皆様のご意見を参考にさせていただきたい。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性のリーダーをつくっていくということについて、子育て中のブランクは非常に大きい。女性がずっと職業に就いていられるようにするためには、男性の育休の取得なども大きなポイントになるのではないかと思います。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子育ての問題、介護の問題は共通する問題だと思う。いずれの問題も男性と女性が同じように平等に負担するということだと思うが、労働力の面からすると労働力を削がれるということ。これをフォローするということになると男女共同参画の問題だけではない。子育て支援、介護福祉行政サービスの充実等を加速してやっていく必要がある。支援策が重要。自治会の問題については、別に考えてはどうかと考えている。コミュニティーの中での住みやすさという観点から考えるとよいのではないか。各地域の中で子育てなどについて考え、それぞれの特性に合った形での地域のまとまりが重要なのではないかと思います。自治会には女性部があり重要な役割を担っているの、自治会に入らない若者が増えていることのほうが懸念される。これからリーダーシップをとろうと考えている女性に対して具体的に支援する計画をつくっていくこととそれを周知していくことが必要。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域推進員として活動していた際、男女共同参画の意識についてどのように認識しているのか地域の人達の話聞いたところ、男女共同参画という言葉は聞いたことがあるが中身はよくわからないという結果だった。そのような状況の中で地域の中で男女共同参画を進めるにはどうすればよいか考え、女性も活躍できる自主防災組織をつくる取組を行った。そこで、まず意識を変える必要があると考え、回覧板等で周知するなどの広報活動を行った。現在自主防災を立ち上げているところだが、その中で女性が活躍できる場ができることで地域における男女共同参画が進めばと思っている。まずは男女共同参画という言葉が知られることによって、意識が出てくると感じている。女性活躍推進法についても、社内で回覧や掲示などにより周知を行っている。しかしそういった意識がまだまだ薄いので、模索しながらやっているところ。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●男女共同参画に何十年と取り組んできたがなかなか進まないのが現状。しかし、個人としては、女性がこれだけ社会進出できる時代になったことはよかったと思っている。お互いの個性や能力を尊重し、理解した中で共に生きようと努力する必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今の学校の中では、性別に関わりなく、生徒1人1人の個性や能力が重視されていると思う。そのような環境で学んだ生徒が大人になり社会を動かしていくようになればさらに変わっていくのではないかと感じている。今後もそれぞれの特性を活かしながら活躍できる子ども達の育成を推進していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会の役員に女性がいない件について、皆様のご意見を聞いて、女性部の代表が役員会に参加できるよう区にお願いしていけばよいと考えた。女性の考えが反映されれば視点が違ってきて変わるだろうと思う。学校での薬物乱用防止教室については今後も推進していただきたいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●薬物乱用防止教室について一点補足だが、数値の上では下がっているように見えるが、どの学校でも実施している。ただたとえばスマホの問題など新しい問題が発生してきておりやらなければならないことが多くなってきているので、在学中に1回は学べるようにしている。単年</li> </ul>

	<p>度ごとに見てみると数値が下がってきているが、現実的にはどこの学校でもしっかり取り組んでいる。</p>
委員	<p>●男女共同参画を推進していくためには、それぞれの個々が実践をしていく時だと感じている。富士吉田市の男女共同参画の取組では、「イクボス」の出前講座を企業の人事部や若手の職員に対して行った。こういった活動を地域との繋がりの中でやっており、28年度も計画している。</p>
議長	<p>●貴重な意見をありがとうございました。</p> <p>以上をもって、本日の議事をすべて終了する。議事進行へ協力いただいたことに謝礼。</p>
事務局	<p>●以上をもって、平成27年度第2回男女共同参画審議会を閉会する。謝礼。</p>